

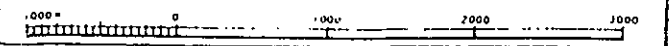


原子炉設置予定箇所

図-4 リニアメント分布図

1:50,000

-35-



凡 例



三角末端面・急斜面



鞍 部



直線状の谷



傾斜変換部

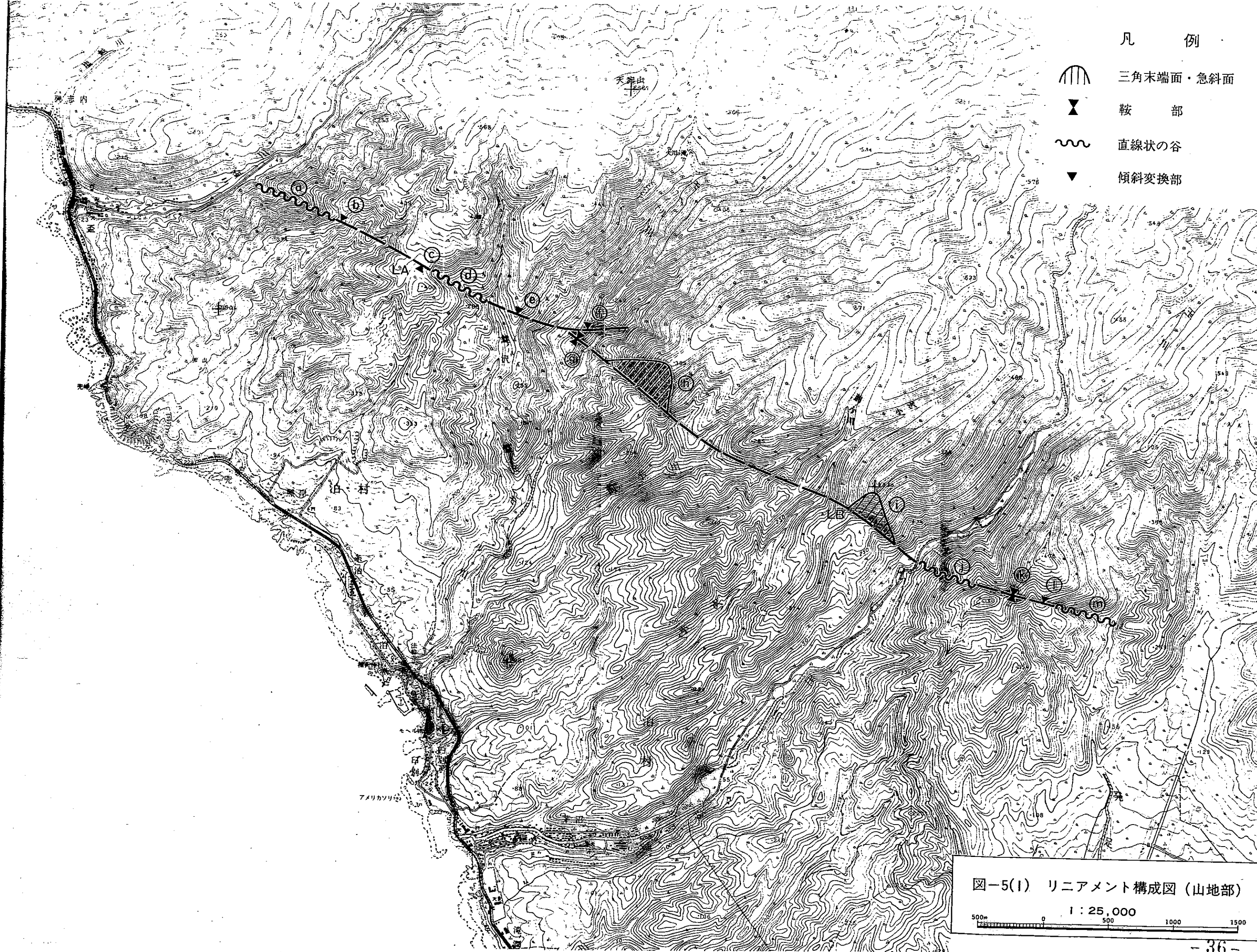
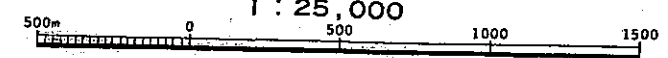
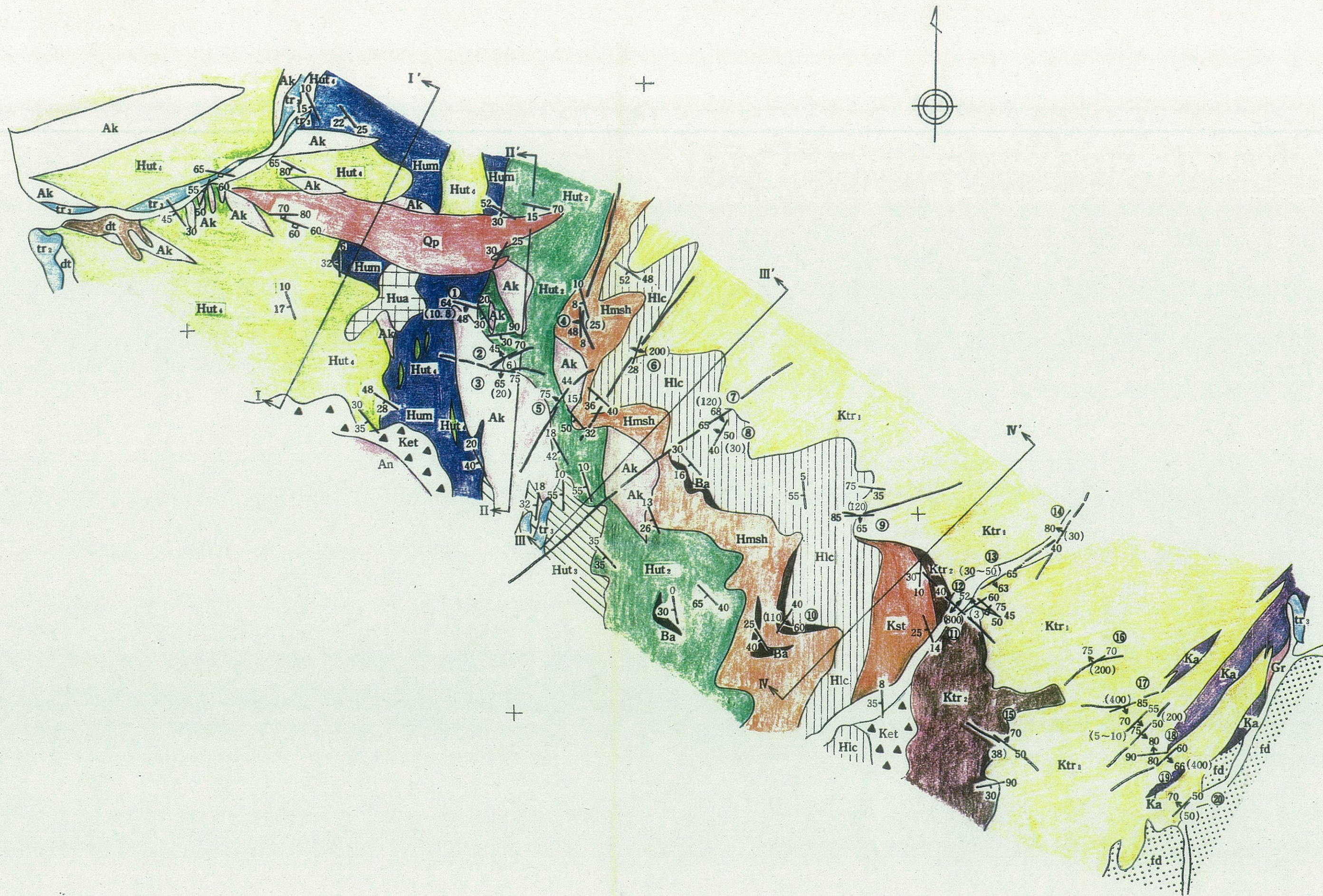
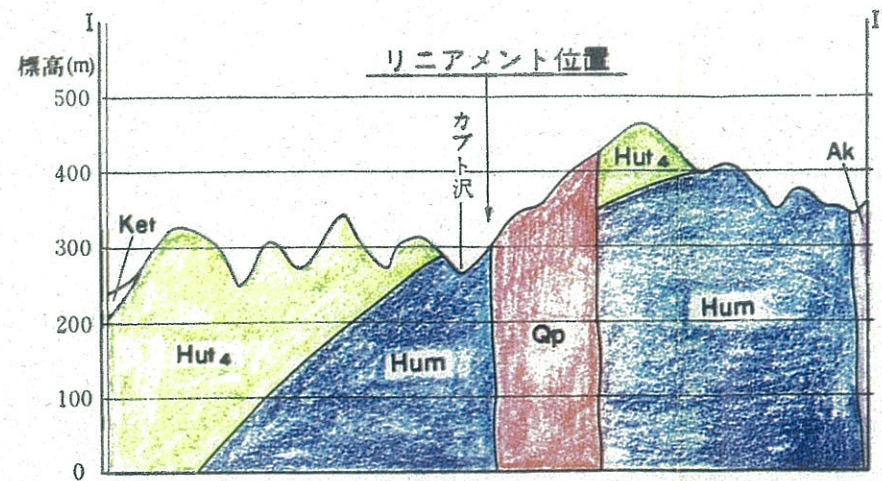


図-5(1) リニアメント構成図 (山地部)

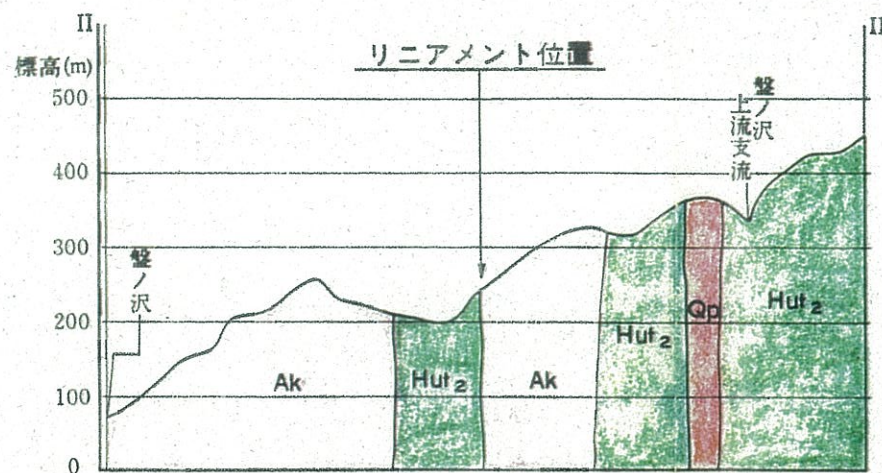
1 : 25,000



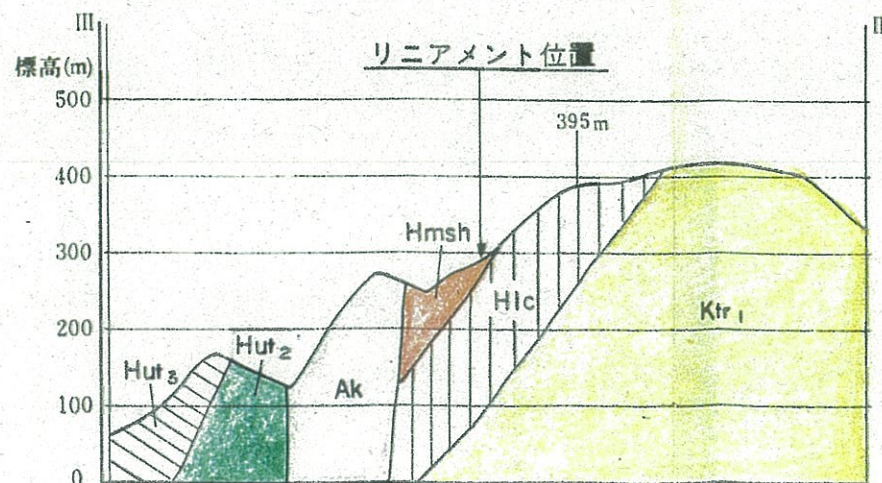




(水平：垂直=1:2.5)



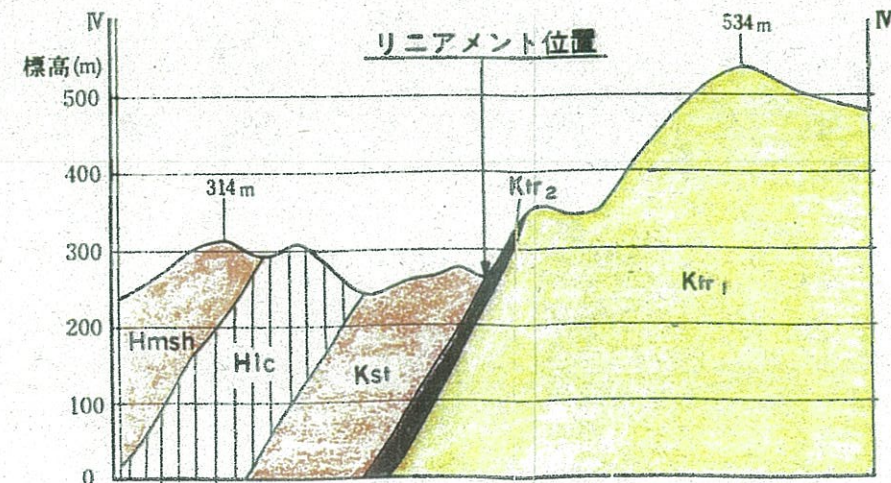
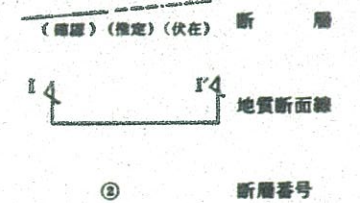
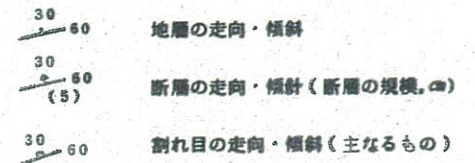
(水平：垂直=1:2.5)



(水平：垂直=1:2.5)

地質時代	地質名	記号	主な岩相	
第四紀 更新世	岩屑堆積物	dt	角礫混り粘性土、砂礫土	
	沖積層	al	礫、砂、粘土	
	低位段丘堆積物	tr ₁	礫、砂、粘土	
	扇状地堆積物	fd	砂、礫	
	擬似火山灰層	pm	軽石質火山灰	
	高位段丘堆積物	tr ₂	粘土混り砂礫	
	ワクンベツ層	Wk	砂、砂礫	
	新第三紀 中新世	神恵内系層	Ket	安山岩質凝灰角礫岩
		上部層	Hus	安山岩
			Hut ₁	安山岩質凝灰角礫岩
Hum			泥岩、頁岩	
Hut ₃			安山岩質凝灰角礫岩、凝灰質砂岩、泥岩互層	
Hut ₂			火山凝灰岩、凝灰岩、砂岩、泥岩互層	
Hmtb			玄武岩質凝灰角礫岩	
中部層		Hmts	凝灰質泥岩、同砂岩、石英安山岩質凝灰岩	
		Hmd	石英安山岩、同質凝灰角礫岩	
		Hmah	頁岩	
下部層	Hlc	礫岩		
茅沼系層	Ka	安山岩		
	kst	頁岩、凝灰岩		
	Ktr ₂	流紋岩質凝灰岩		
	Ktr ₁	流紋岩、石英安山岩、同凝灰角礫岩、同火山円礫岩		
先第三紀	花崗岩類	Gr	花崗閃緑岩、石英閃緑岩	

貫入岩類	記号	岩名
Ba	玄武岩	玄武岩
Rh	流紋岩	流紋岩
An	安山岩	安山岩
Ak	安山岩	安山岩
Qp	石英凝岩	石英凝岩



(水平：垂直=1:2.5)

図-6(1) リニアメント周辺の地質図 (山地部)



凡 例



三角末端面・急斜面



鞍 部



直線状の谷

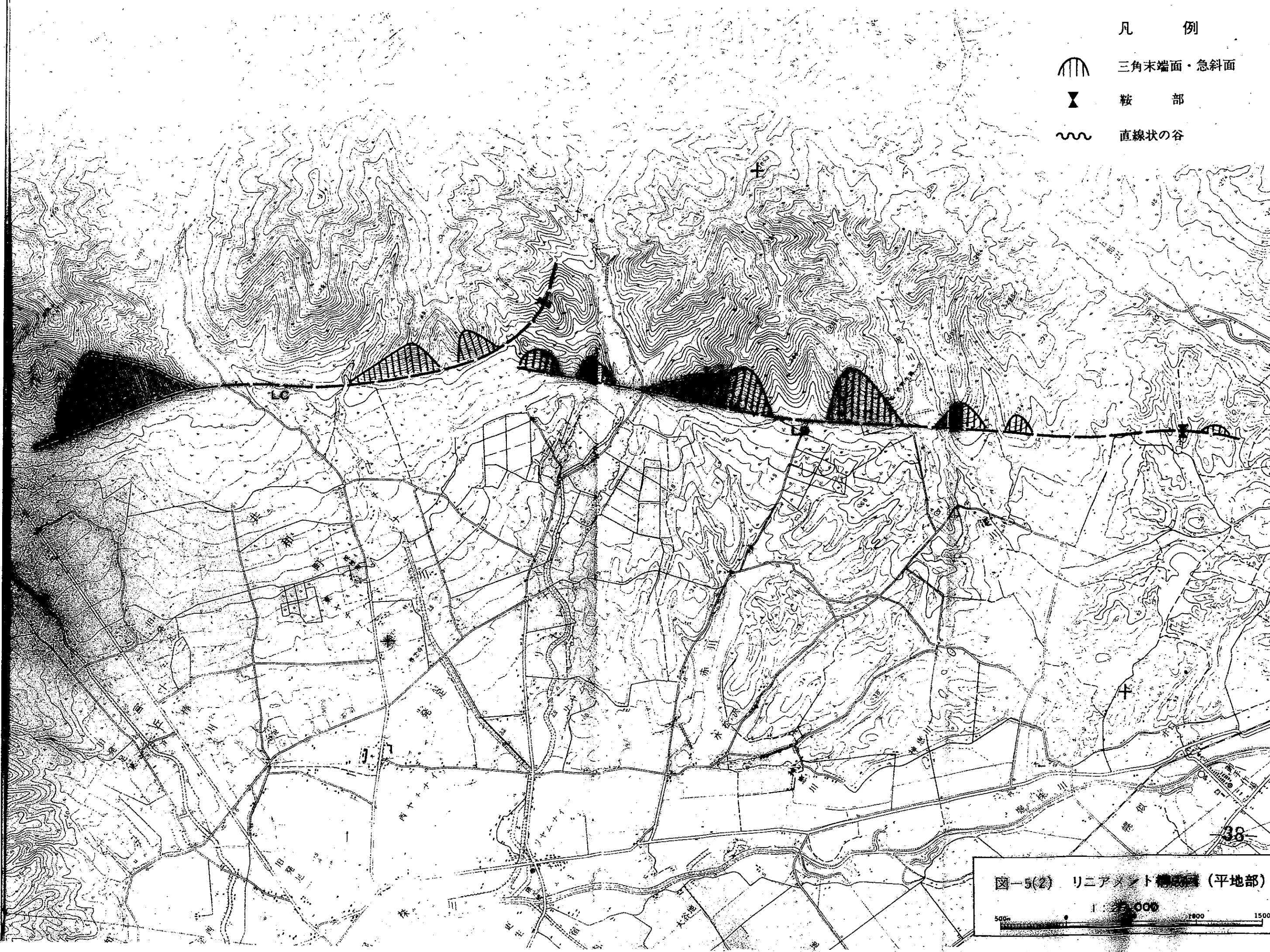
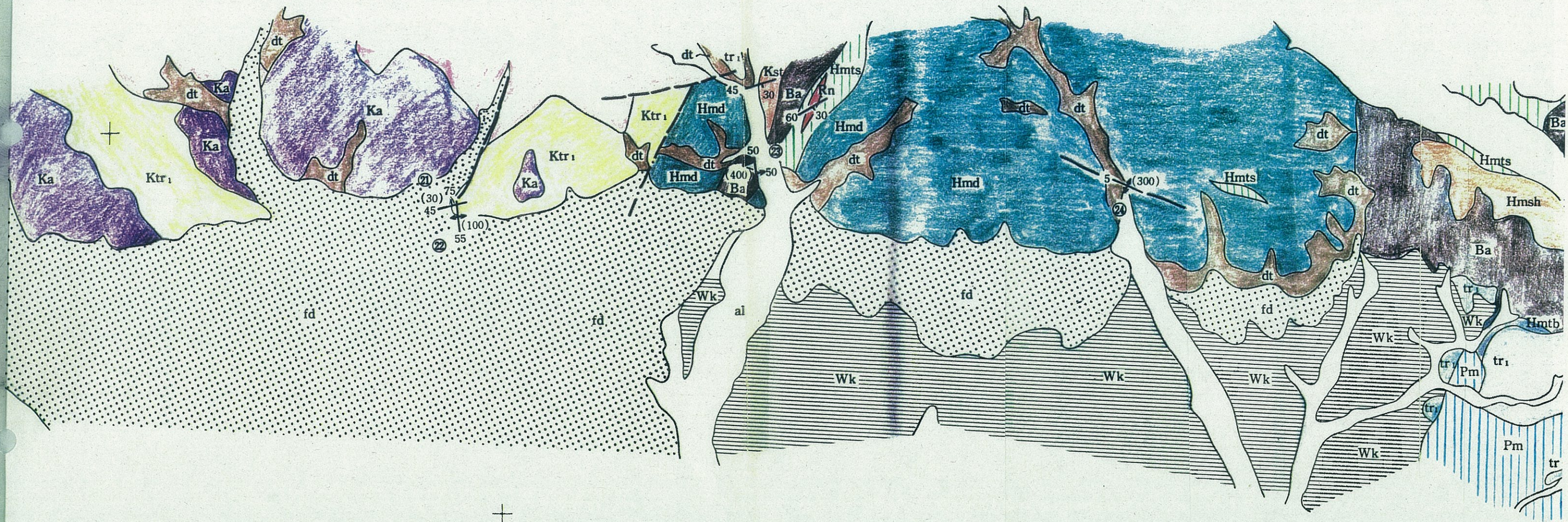
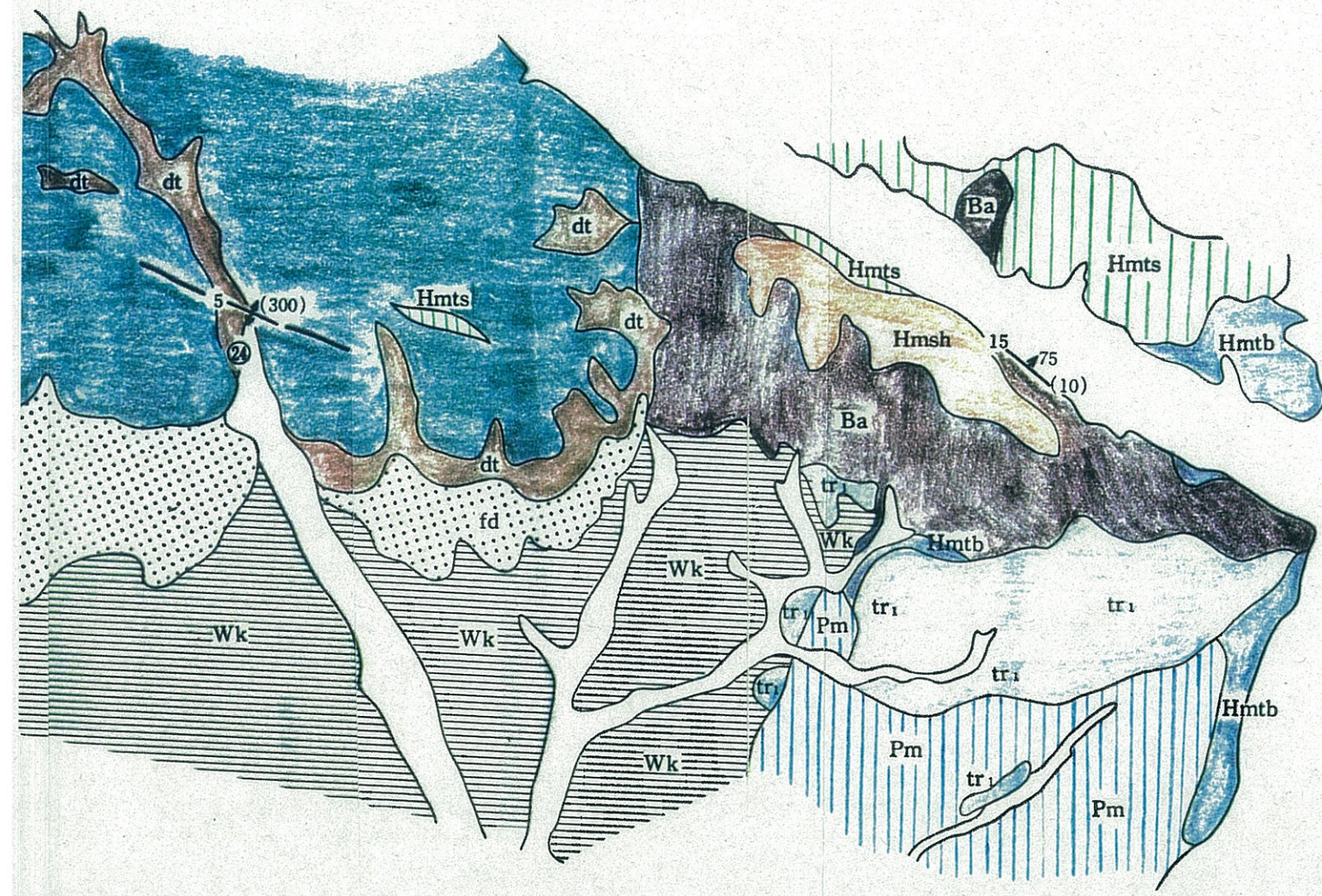


図-5(2) リニアメント建設区 (平地部)







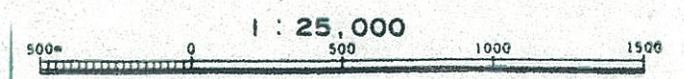
地質時代	地質名	記号	主な岩相	
第四紀	完新世	岩屑堆積物	dt	角礫混り粘性土、砂質土
	沖積層	al	礫、砂、粘土	
	更新世	低位段丘堆積物	trs	礫、砂、粘土
		扇状地堆積物	fd	砂、礫
		概似火山灰層	pm	軽石質火山灰
		高位段丘堆積物	tr1	粘土混り砂礫
ワクンベツ層	Wk	砂、砂礫		
新第三紀	神恵内累層	Ket ▲▲	安山岩質凝灰角礫岩	
	古平累層	Hus	安山岩	
		Hut1	安山岩質凝灰角礫岩	
		上部層	Hum	泥岩、頁岩
		Hut2	安山岩質凝灰角礫岩、凝灰質砂岩、泥岩互層	
		Hut3	火山凝灰岩、凝灰岩、砂岩、泥岩互層	
		Hmtb	玄武岩質凝灰角礫岩	
	中部層	Hmts	凝灰質泥岩、同砂岩、石英安山岩質凝灰岩	
		Hmd	石英安山岩、同質凝灰角礫岩	
		Hmah	頁岩	
	下部層	Hlc	礫岩	
	茅沼累層	Ka	安山岩	
	kst	頁岩、凝灰岩		
Ktr2	流紋岩質凝灰岩			
Ktr1	流紋岩、石英安山岩、同凝灰角礫岩、同火山円礫岩			
先第三紀	花崗岩類	Gr	花崗閃緑岩、石英閃緑岩	

貫入岩類	記号	岩名
Ba	玄武岩	玄武岩
Rh	流紋岩	流紋岩
An	安山岩	安山岩
Ak	安山岩	安山岩
Qp	石英斑岩	石英斑岩

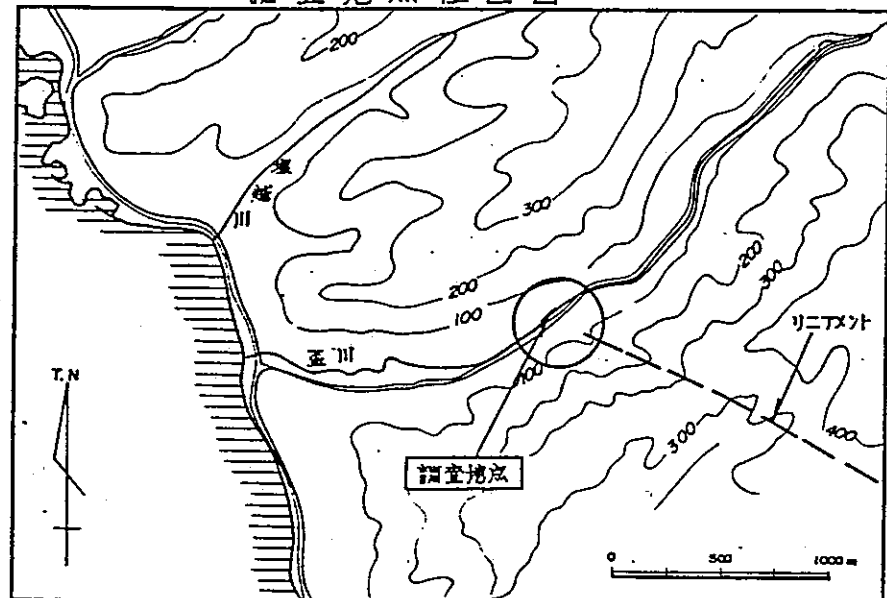
30 60 地層の走向・傾斜
 30 60 断層の走向・傾斜(断層の規模, cm)
 (5)
 30 60 割れ目の走向・傾斜(主なるもの)

(確認) (推定) (伏在) 断層
 I'4 I'4 地質断面線
 ② 断層番号

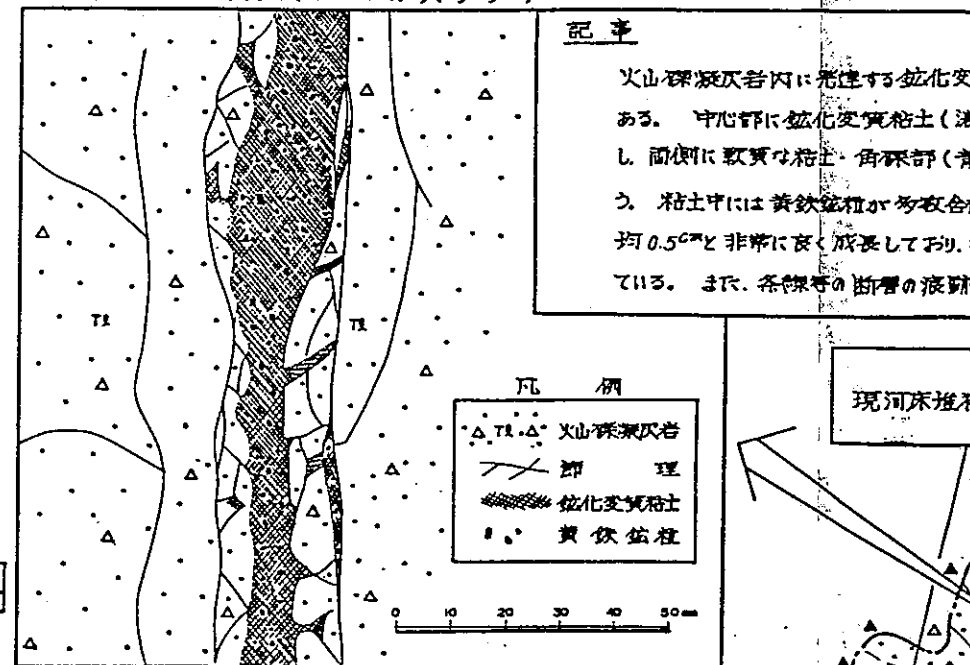
図-6(2) リニアメント周辺の地質図 (平地部)



調査地点位置図



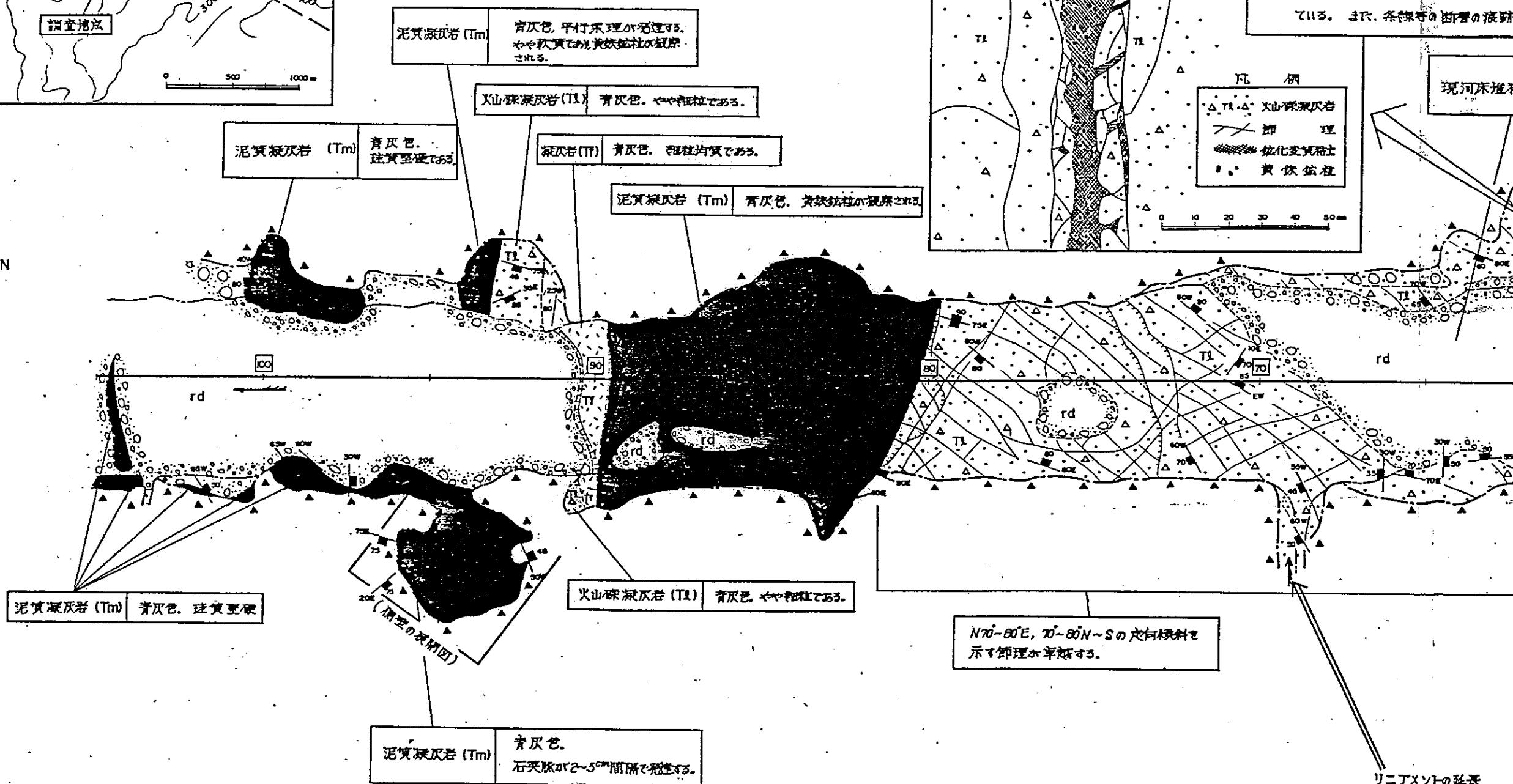
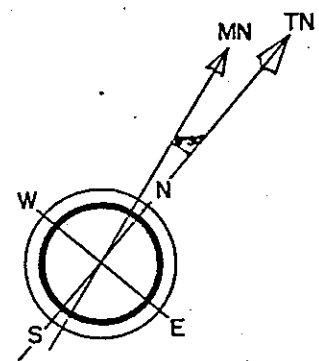
鉍化変質帯のスケッチ



記号
火山礫凝灰岩内には発達する鉍化変質帯がある。中心部に鉍化変質粘土(濃し、両側に軟質な粘土・角礫部(青)う、粘土中には黄鉄鉱粒が多数あり、平均0.5cmと非常に良く成長している。また、各標本の断面の痕跡

凡例
△ T1, △ 火山礫凝灰岩
— 節理
■ 鉍化変質粘土
● 黄鉄鉱粒

現河床堆積



泥質凝灰岩 (Tm) 青灰色、平行条理が発達する。やや軟質であり、黄鉄鉱粒が観察される。

火山礫凝灰岩 (T1) 青灰色、やや粗粒である。

泥質凝灰岩 (Tm) 青灰色、珪質堅硬である。

凝灰岩 (T1) 青灰色、粗粒均質である。

泥質凝灰岩 (Tm) 青灰色、黄鉄鉱粒が観察される。

泥質凝灰岩 (Tm) 青灰色、珪質堅硬

火山礫凝灰岩 (T1) 青灰色、やや粗粒である。

N70°-80°E, 70°-80°N~Sの方向傾斜を示す節理が卓越する。

泥質凝灰岩 (Tm) 青灰色、石英脈が2~5cm間隔で発達する。

リニアメントの延長 (方向 N55°W)



のスケッチ

記事
 火山礫凝灰岩内に発達する鉍化変質帯 (幅20~30m) である。中心部に鉍化変質粘土 (濃青灰色, 幅5~20m) を有し、両側に軟質な粘土・角礫部 (青灰色, 幅10m以下) を伴う。粘土中には黄鉄鉱粒が多数含有され、最大径3 μ m、平均0.5 μ mと非常に良く成長しており、結晶面も良く保存されている。また、各礫部の節理の痕跡は認められない。

凡例

- △ T1, △ 火山礫凝灰岩
- 節理
- ▨ 鉍化変質粘土
- 黄鉄鉱粒

0 10 20 30 40 50m

現河床堆積物 (rd) 火山岩、火山礫凝灰岩の礫が多い。最大礫径は50cmである。

火山礫凝灰岩 (T1) 淡緑灰色。比較的細粒。硬質。

火山礫

現河床堆積物 (rd)

現河床堆積物 (rd)

火山礫凝灰岩 (T1) 淡青灰色。黄鉄鉱粒が観察される。固結度高く堅硬である。径10cm程度の礫を含有する。

火山礫凝灰岩 (T1) 緑灰色。黄鉄鉱が観察される。

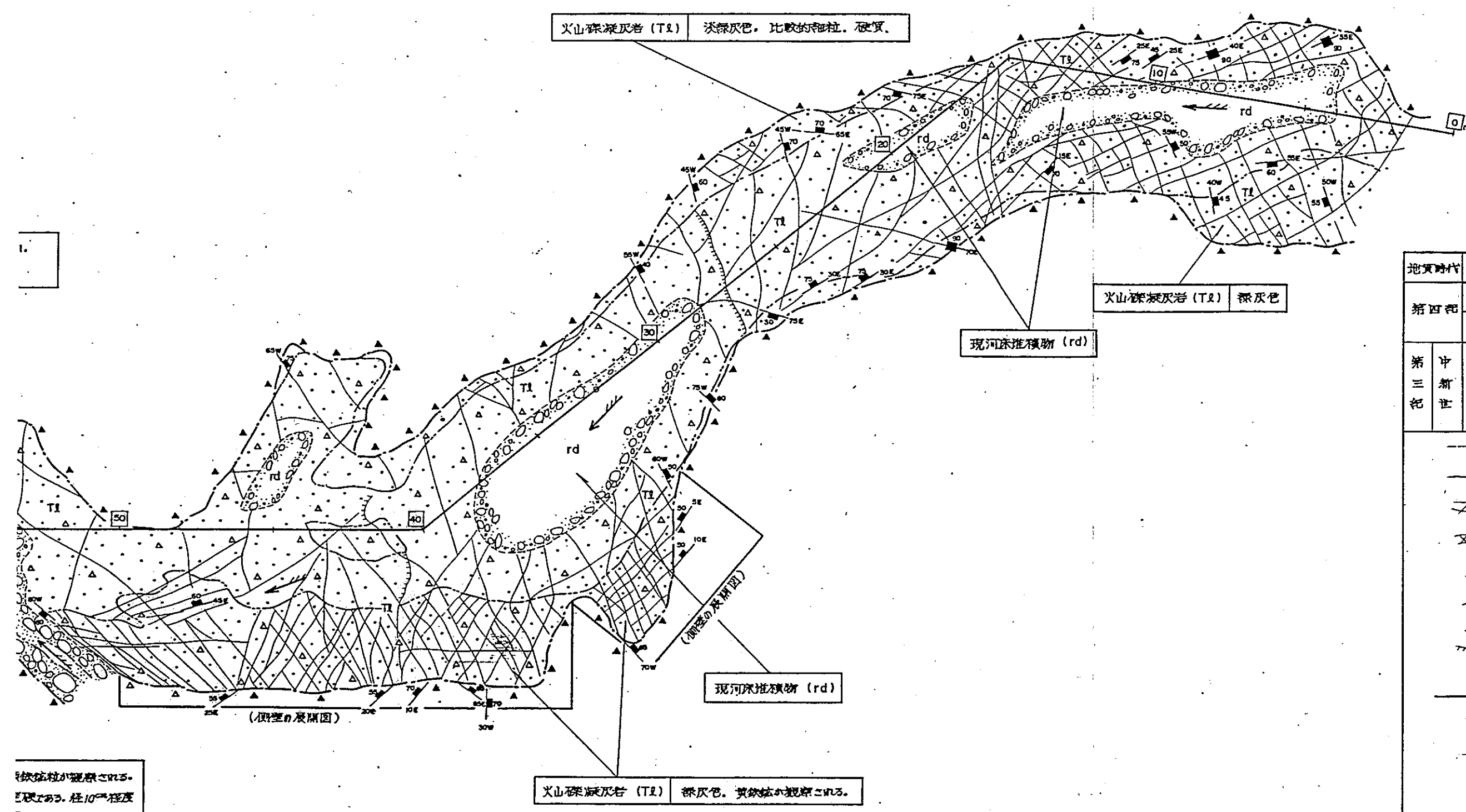
河床斜を

リニアメントの延長 (方向 N55°W)

0 10 15 20m



記事
 この露頭は五川下流部 (標高約40m) に位置し、第三紀中新世の古平系層上部層よりなる。この層は観察されない。
 距離程94mまでは、火山礫凝灰岩・泥質凝灰岩および凝灰岩の連続露頭であり、61m付近に鉍化帯20~30mがみられる以外は節理の発達した堅硬な岩盤である。94~105mの間では、露頭は乏であるが、堅硬な泥質凝灰岩よりなる。
 調査地域内の微地形 (流路・河床の凹地・溝など) の方向は卓越する節理によって規制されており、程61m付近の鉍化変質帯も卓越する節理に沿って形成されたものである。



凡 例

地質時代	地層名	記号	岩 相
第四紀	新土	▲ ▲	シルト質砂礫
	現河床堆積物	○ rd ○	砂 礫
第三紀	中新世	(Hut)	泥質凝灰岩
		(Tf)	凝灰岩
		(T&L)	火山礫凝灰岩

— — — — —	地質境界
———	流水の範囲
///	節理
XXXXX	鉱化変質帯
80 15W	地層の走向傾斜
60 30W	節理の走向傾斜
60 45W	鉱化変質帯の走向傾斜
~~~~~	小さな池
50	距離標
←	流 向

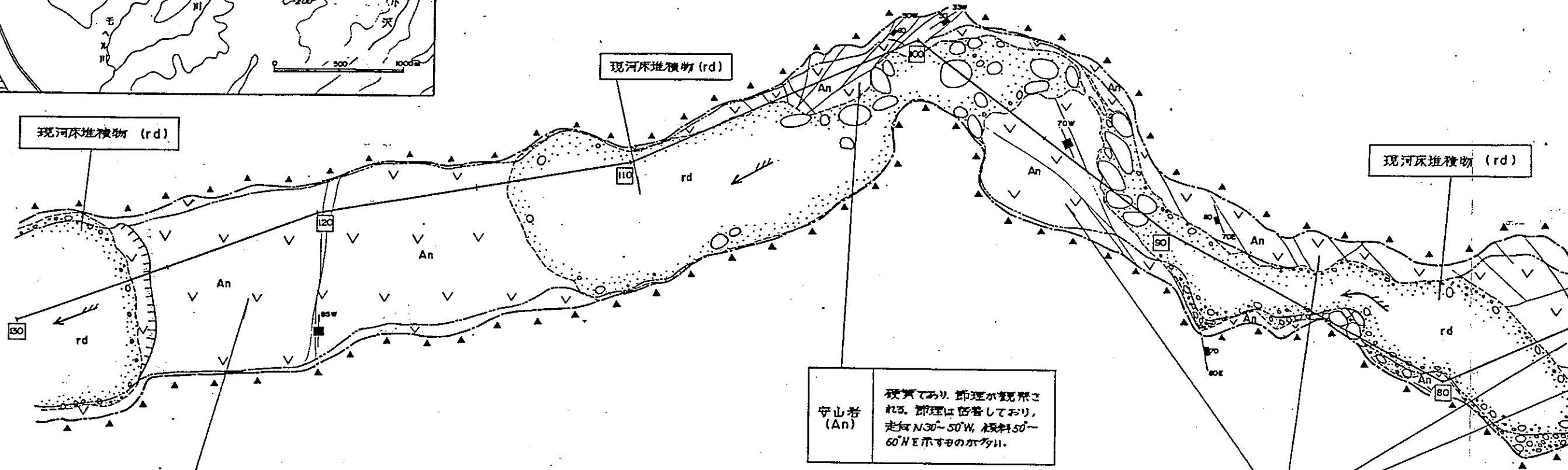
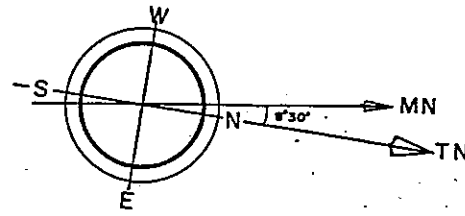
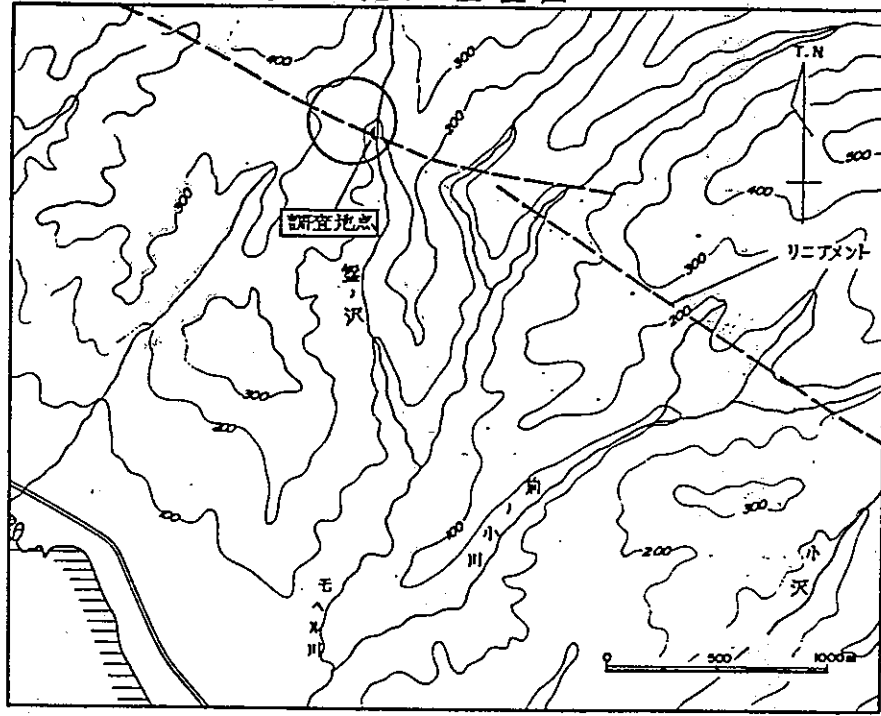
この露頭は五川下流部（標高約40m）に位置し、第三紀中新世の古平系層上部層よりなる。この露頭には節理は観察されない。

距離標94mまでは、火山礫凝灰岩・泥質凝灰岩および凝灰岩の連続露頭であり、61m付近に鉱化変質帯（幅20~30m）がみられる以外は節理の発達した堅硬な岩盤である。94~105mの間では、露頭はやや不連続であるが、堅硬な泥質凝灰岩よりなる。

調査地域内の微地形（流路・河床の凹地・池など）の方向は卓越する節理によって規制されている。距離標61m付近の鉱化変質帯も卓越する節理沿いに形成されたものである。

図-7(1) 五川沿いの露頭スケッチ

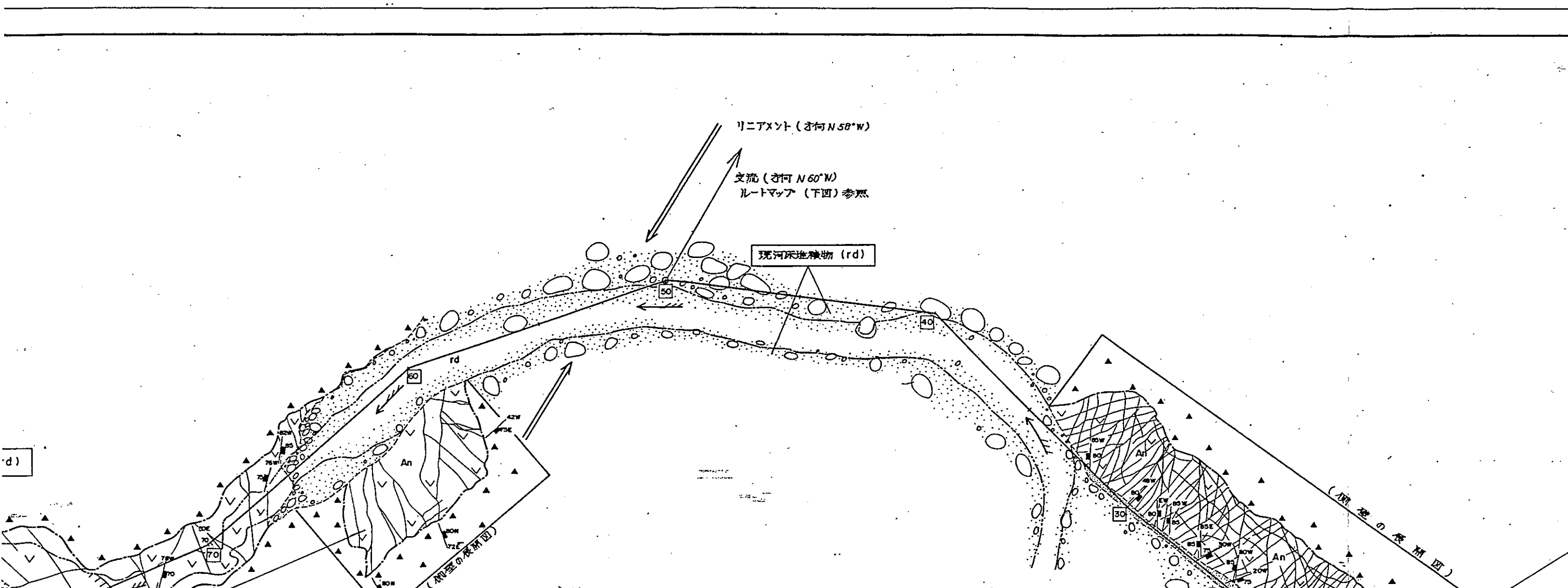
調査地点位置図



守山岩 (An)  
 硬質で節理は稀めて少ない。河床全面に露出する。小さな滝があるが、守山岩は下流へ連続して分布する。

守山岩 (An)  
 硬質であり、節理が発達される。節理は密着しており、走向 N30°-50°W、傾斜 50°-60°N を示すものが多い。

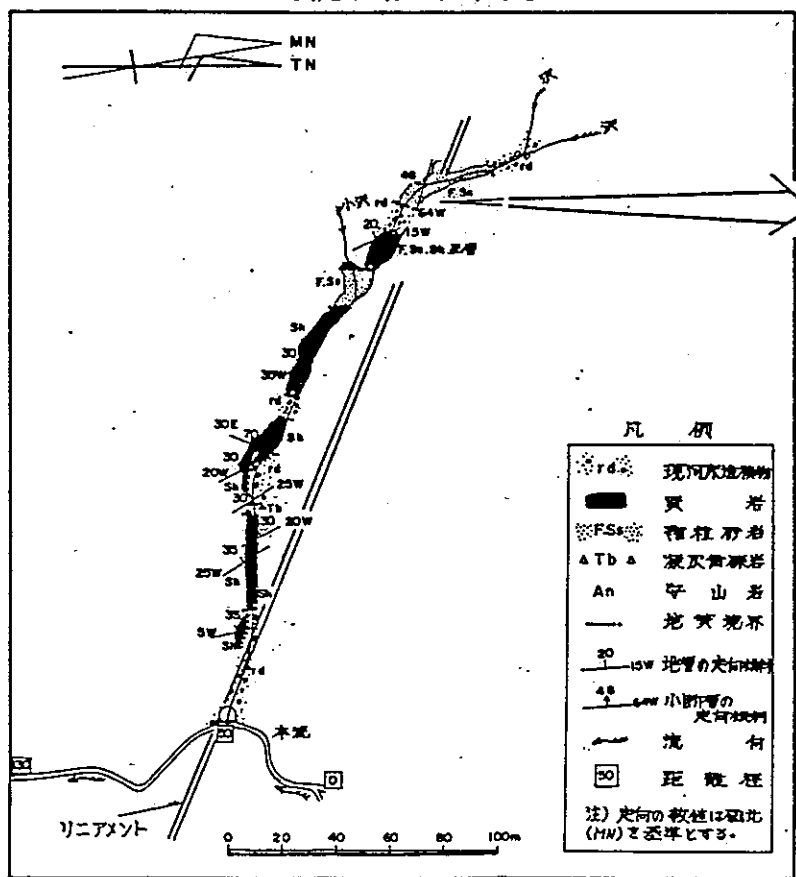
守山岩 (An)  
 硬質であり、節理が発達する。節理の走向は N60°-70°E で傾斜は 80°E-80°W である。密着している。高さ 3m 程度の滝があるが、上記の節理に規則的な滝の方向は約 N70°E である。



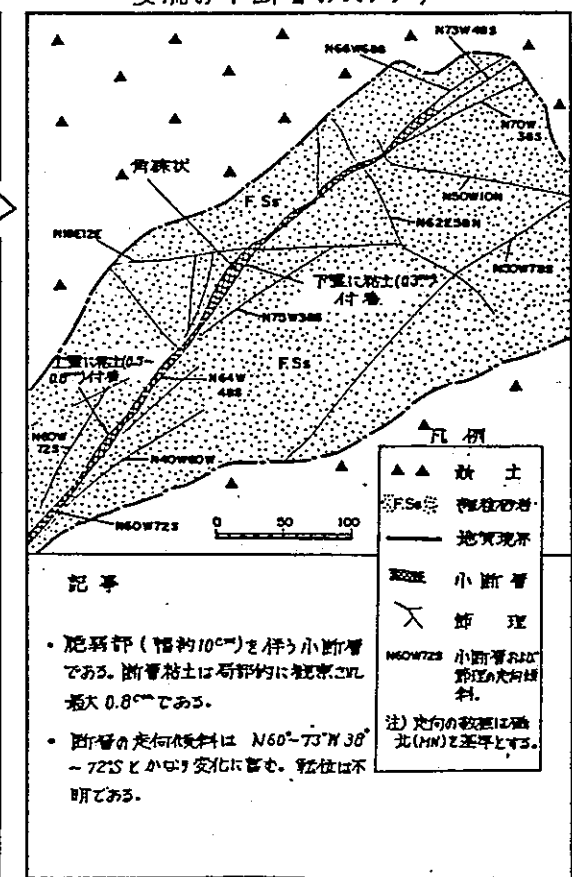
d)

±80E  
程度の  
乱流

支流のルートマップ



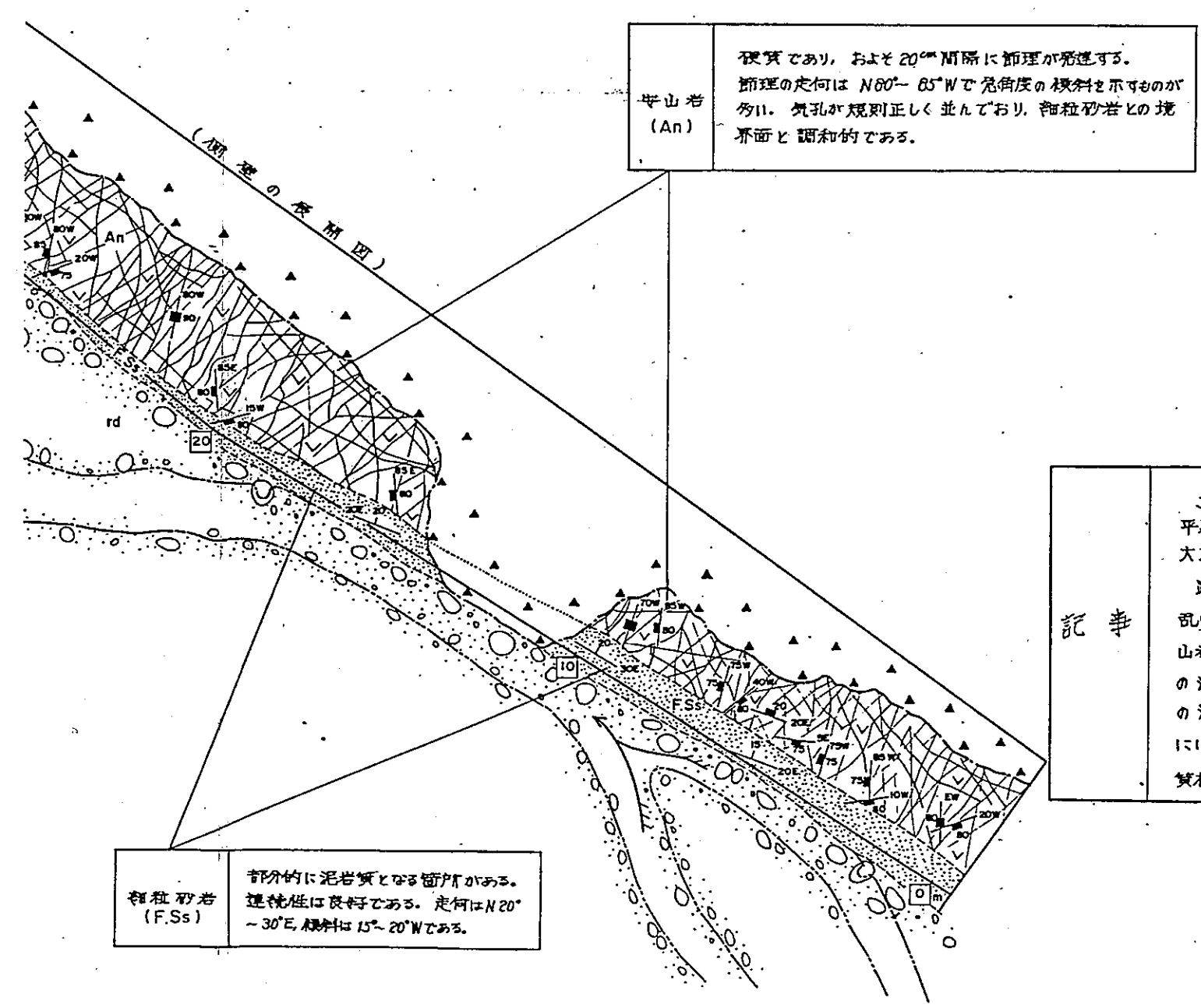
支流の小断層のスケッチ



記事

- 断層部 (幅約10cm) を伴う小断層である。断層粘土は局所的に観察され、長さ0.8cmである。
- 断層の走向傾斜は N60°-73°W 38°-72°S とかなり変化に富む。方位は不明である。

粗粒砂岩 (F.Ss)  
部分的に泥岩質となる箇所がある。連続性は良好である。走向は N20°-30°E、傾斜は 15°-20°W である。



守山岩 (An)

硬質であり、およそ20m間隔に節理が発達する。節理の走向はN60°-85°Wで急角度の傾斜を示すものが多し。気孔が規則正しく並んでおり、粗粒砂岩との境界面と調和的である。

記 事

この露頭は盤ノ沢中流部(標高約180m)に位置し、第三紀中新世の古平系層上部層よりなる。調査範囲内には、小断層が1条観察されるが、大規模な断層は存在しない。

距離程0~10m、14~35m、65~130mの間隔は連続露頭であり、地質構造の乱れはない。10~14m間隔には露頭はないがスケッチ図に示したように守山岩と粗粒砂岩の境界は作図上ほぼ連続する。また、35~60m間隔の盤ノ沢本流では岩壁状況は観察できないが、距離程50mで合流する支流の河床にかなり連続して岩壁が露出する(支流のルートマップ参照)。この支流には、1条の小断層(支流の小断層のスケッチ参照)が観察されたのみで、地質構造の乱れはなく、この区間にも大規模な断層は存在しない。

粗粒砂岩 (F.Ss)

部分的に泥岩質となる箇所がある。連続性は良好である。走向はN20°-30°E、傾斜は15°-20°Wである。

凡 例

地質時代	地層名	記 号	岩 相
第四紀	崩 土	▲▲▲	シルト質砂礫
	河床堆積物	○ rd ○	砂 礫
第三紀 中新世	貫入岩 (A丸)	▽ An ▽	守 山 岩
	古平系層 (上群層) (Hut4)	■ F.Ss	粗粒砂岩

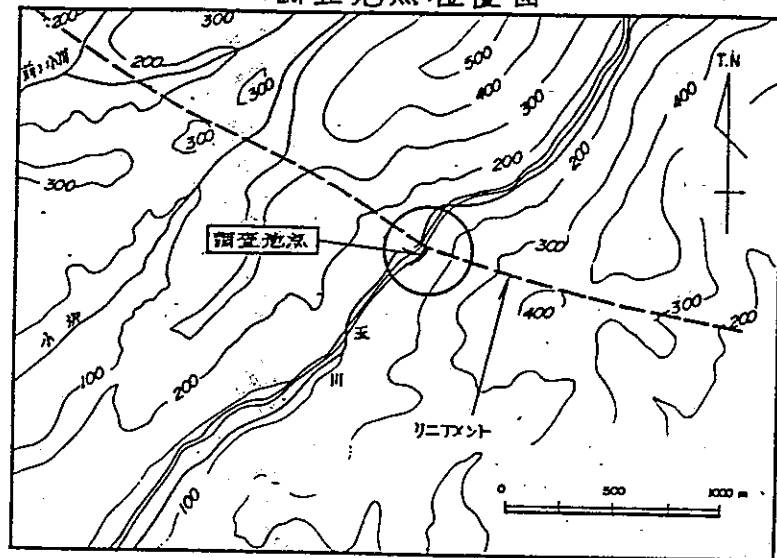
-----	地質境界
-----	作図上の地質境界
-----	流水の範囲
////	節 理
20° 20°E	地層の走向傾斜
20° 20°E	節理の走向傾斜
50	距離程
←	流 向
~~~~~	小さな池

注: 走向の数値は磁北(MN)を基準とする。

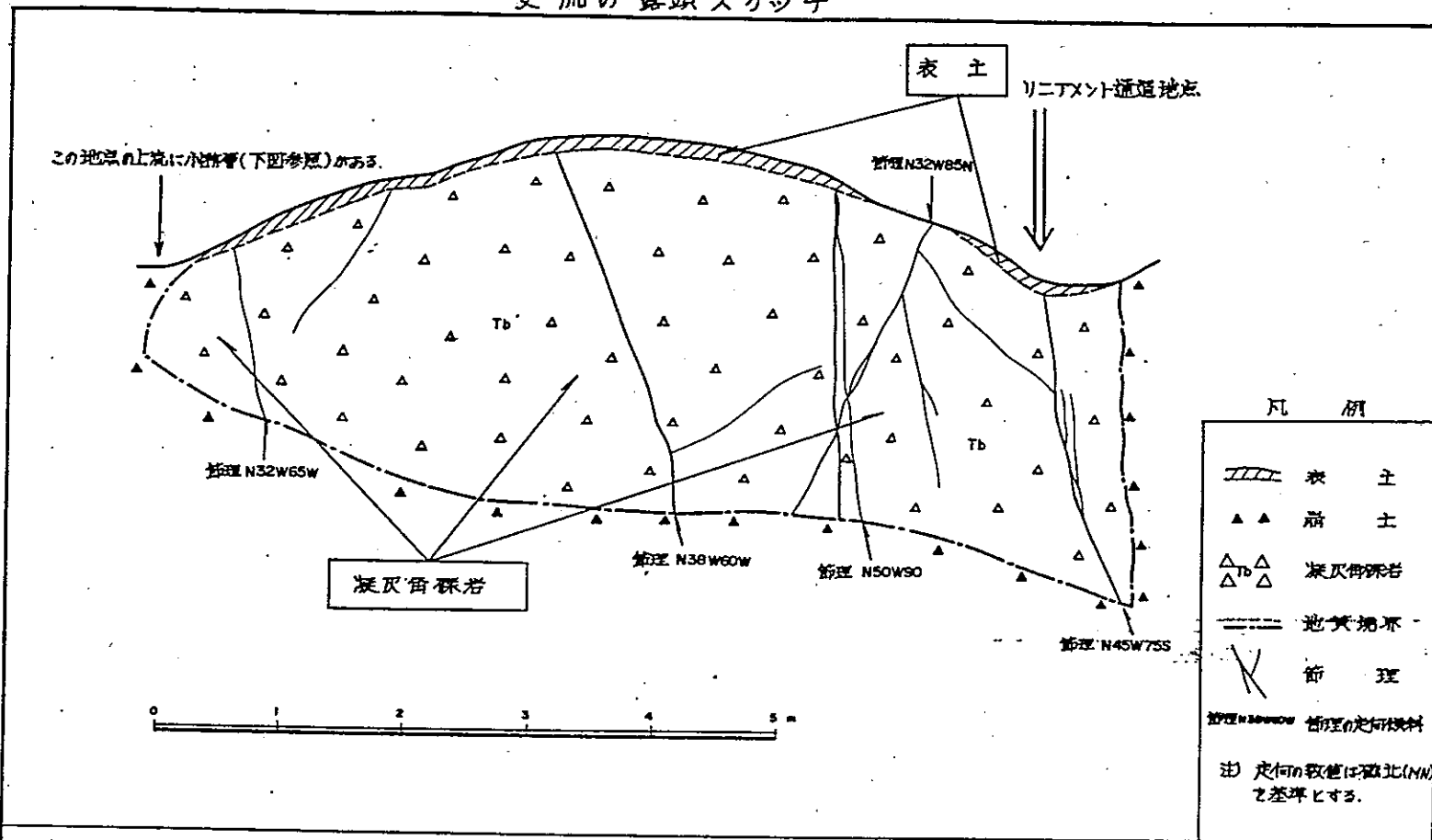
図-7(2) 盤ノ沢沿いの露頭スケッチ

-41- 3/3

調査地点位置図



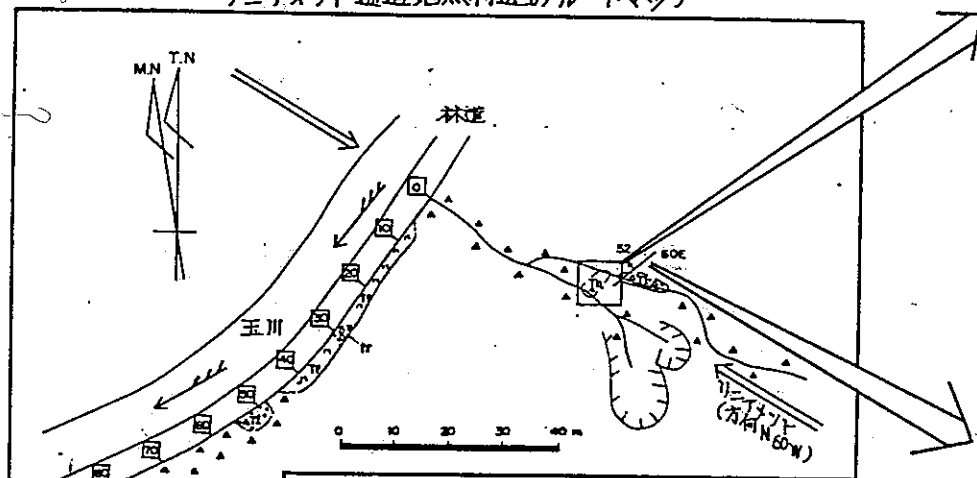
支流の露頭スケッチ



記事

このスケッチは、玉川左岸のリニアメントが通過する支流の露頭状況を示すものである。断層は本露頭には認められず、箇中右半分には3本の顕著な節理が観察される。地質は第三紀中新世の茅沼系層を構成する凝灰角礫岩であり、全体にやや風化して、黄褐色を呈する。礫は灰色の守山岩(平均礫径5cm)であり、鉱化作用は受けていない。

リニアメント通過地点付近のルートマップ

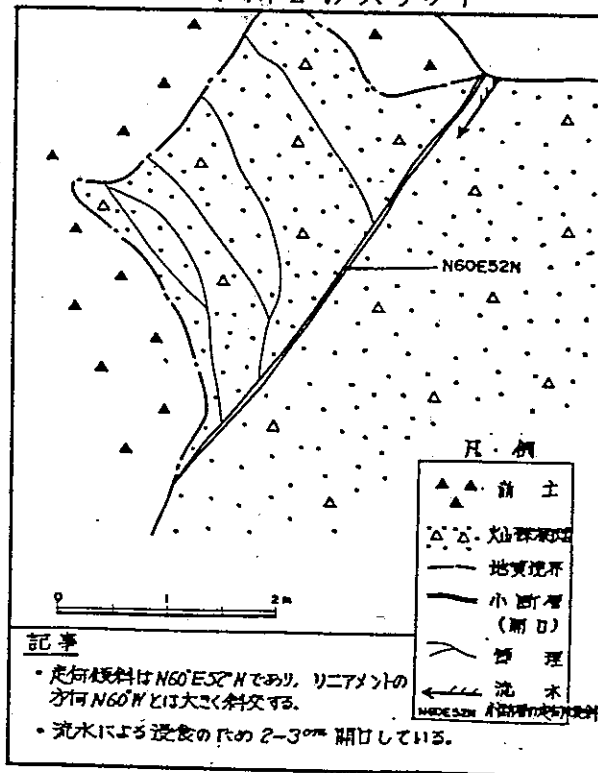


凡例

- ▲▲ 前土
- 投石堆積物
- △△ 凝灰岩
- △△ 大山凝灰岩
- △△ 凝灰角礫岩
- 小断層の走向線
- 前線地
- 距離標

注) 走向の方位は真北(NN)を基準とする。

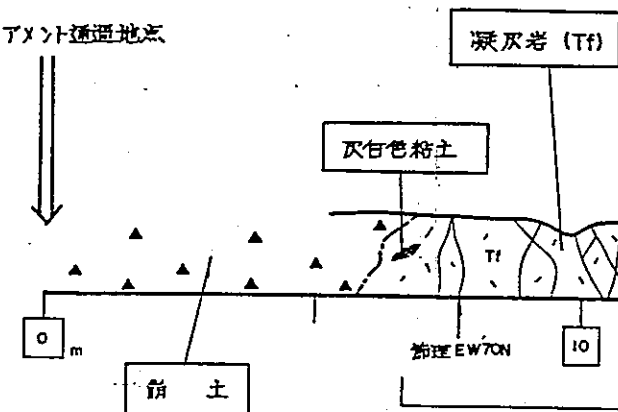
小断層のスケッチ



記事

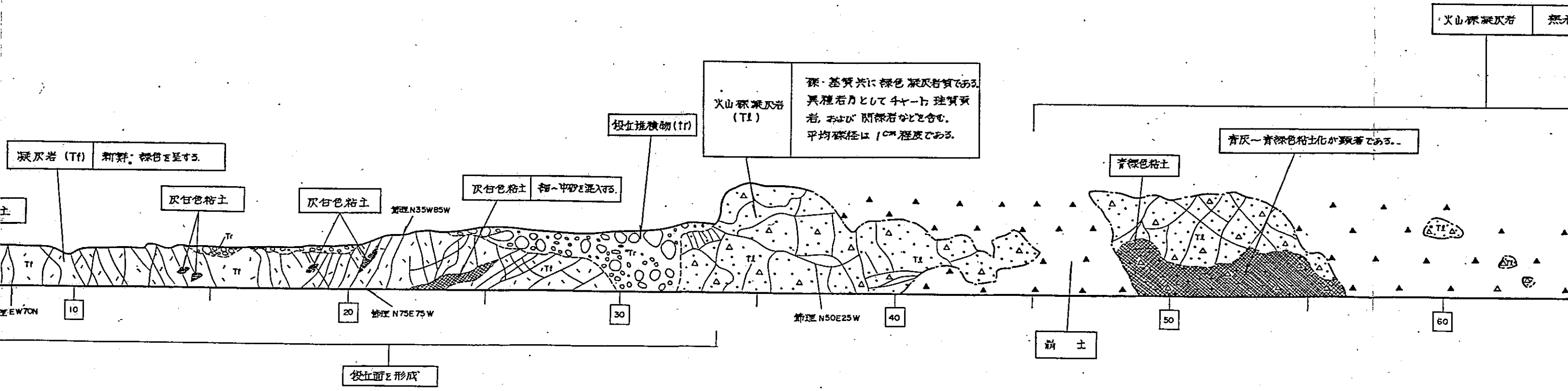
・走向線はN60E52Nであり、リニアメントの方向N60Wとは大きく斜交する。
・流水による浸食の代り2-3m開いている。

リニアメント通過地点



この露頭は、玉川中流部（標高約 120m）に位置し、第三紀中新世の茅渚系層よりなる。調査範囲内では、玉川左岸の支流に小断層が 1 条認められるのみである。（ルートマップ参照）。
 リニアメントが通過する支流の露頭（支流の露頭を参照）には、断層は認められず、節理のみみられるのみである。その上流部には観察される小断層（N60E52N）は、リニアメントの方向（N60W）とは大きく異なる。また、林道沿いは露頭状況が不十分で詳細な地質状況は把握できないが、距離程 6-30m には凝灰岩が、32-45m、47-56m、79-87m の区間には火山礫凝灰岩が連続して分布する。全般に緑色を呈し、局所的に交質による粘土化作用を受けており、特に 45-80m 間の粘土化は著しく、岩質は脆弱化している。

記号



太平洋
 隆起
 不陸
 山脈
 土化

凡例

地質時代	地層名	記号	岩相
第四紀	崩土	▲ ▲	砂 礫
	侵食堆積物	○ Tr ○	砂 礫
第三紀 中新世	茅沼系層 (Ktr ₂)	TI	凝灰岩
		△ TI △	火山礫凝灰岩
		△ Tb △	凝灰質礫岩

	地質境界
	粘土化帯
	節理
	距離尺
50	節理 N25E45W
	節理の走向傾斜
	注・走向の方位は磁北(MN)を基準とする。

火山礫凝灰岩 熱水浸食作用による粘土化、岩質の脆弱化が顕著である。

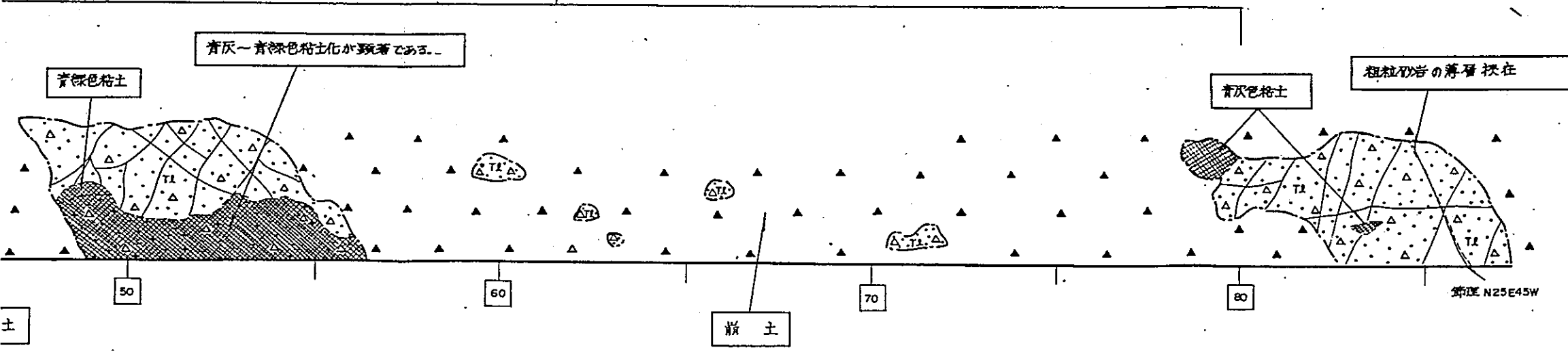
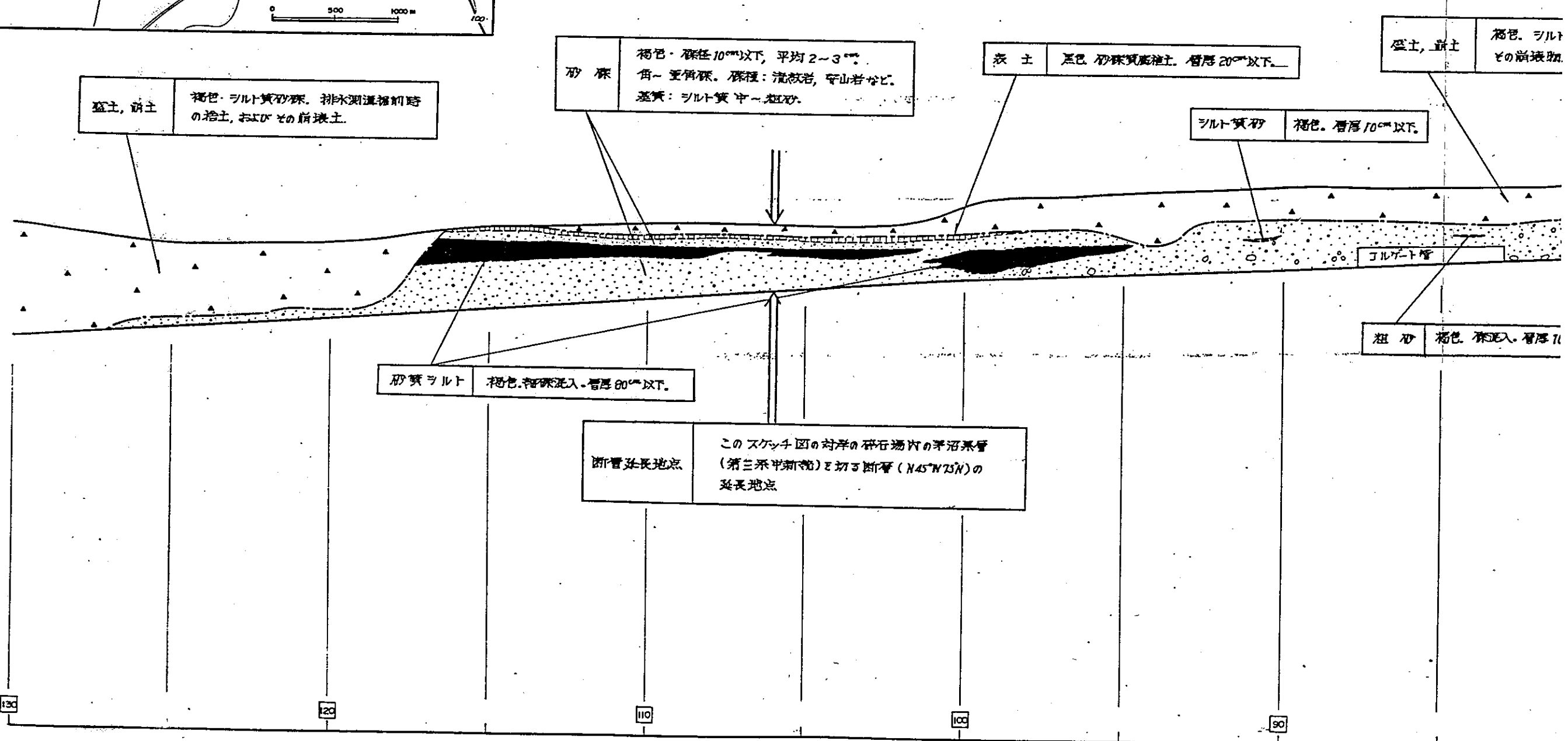
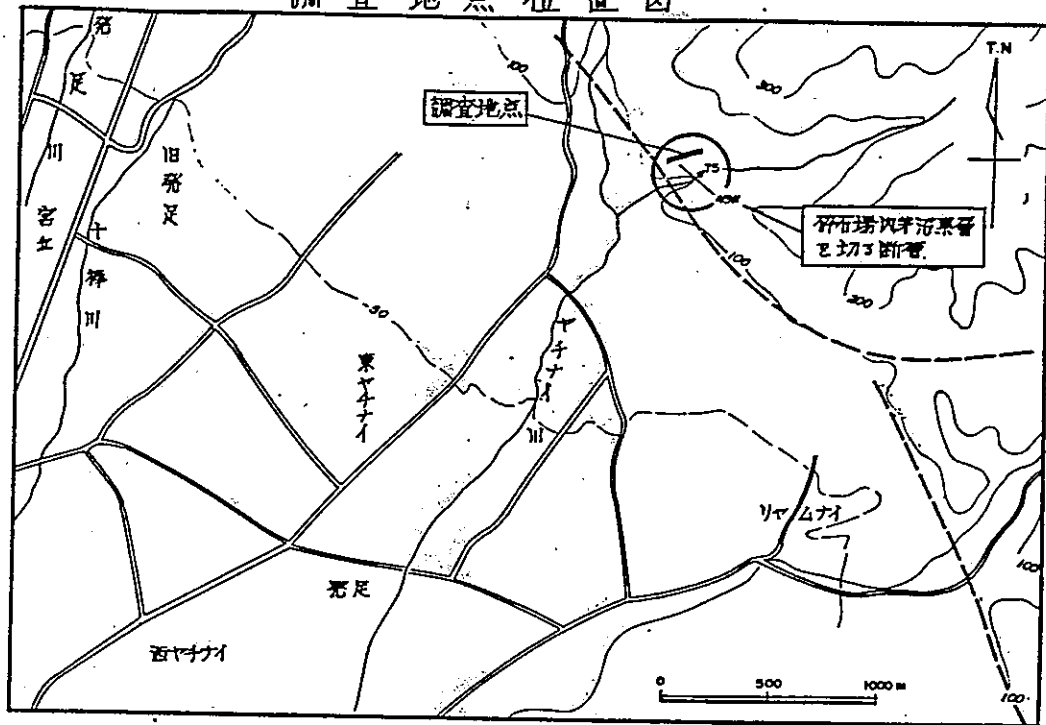


図-7(3) 玉川沿いの露頭スケッチ

調査地点位置図



盛土、崩土
褐色・シルト質砂礫。排水側溝掘削時の
粘土、およびその崩壊物。

砂 礫
褐色・粒径 10^{mm} 以下、平均 $2\sim3^{\text{mm}}$ 。
角~重角礫。礫種：流紋岩、安山岩など。
基質：シルト質中~粗砂。

表 土
灰色 砂礫質底土。層厚 20^{cm} 以下。

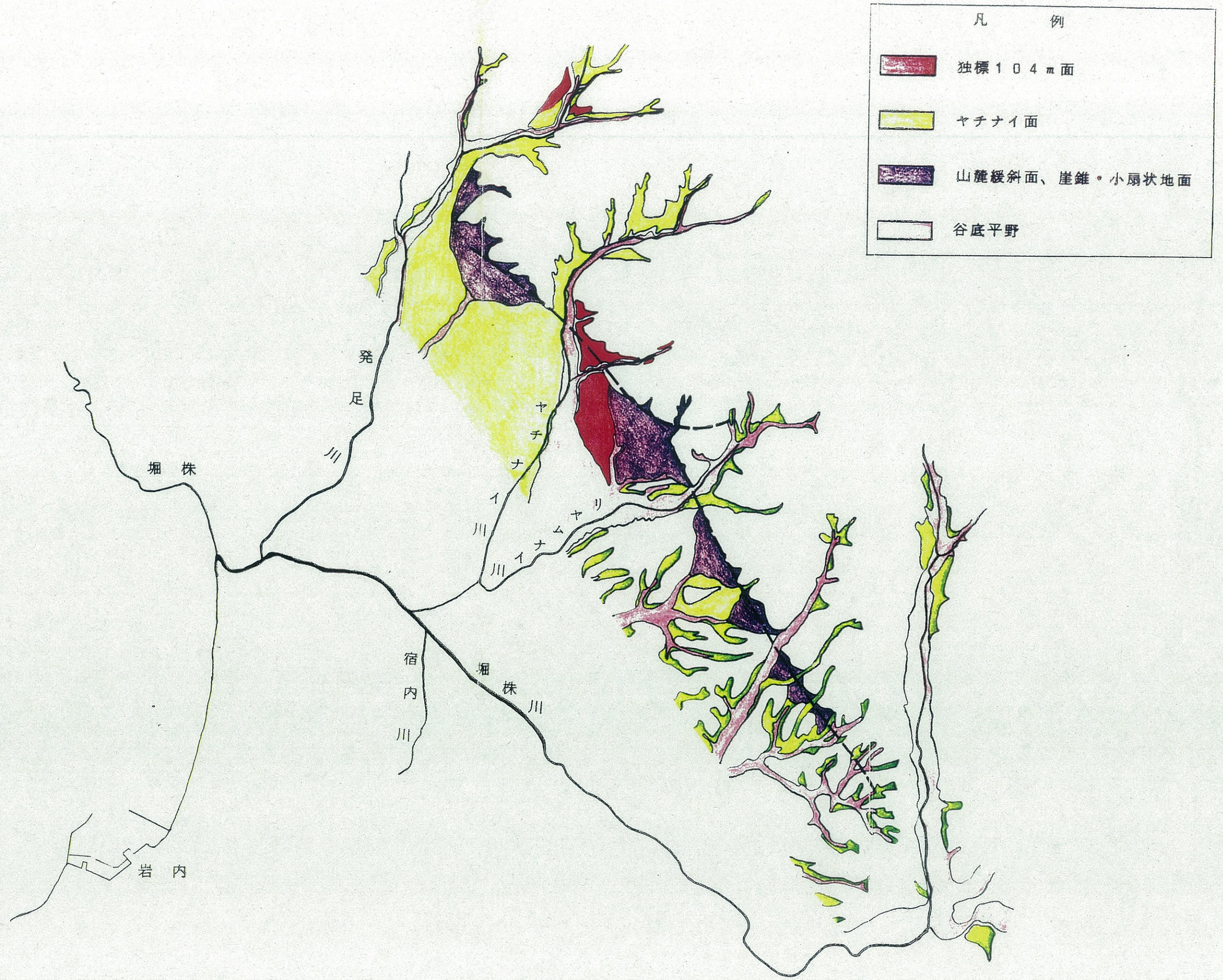
盛土、崩土
褐色。シルト
質の崩壊物。

シルト質砂 褐色。層厚 10^{cm} 以下。

粗 砂 褐色 礫混入。層厚 10^{cm} 以下。

砂質シルト 褐色。礫混入。層厚 60^{cm} 以下。

断面延長地点
このスケッチ図の対岸の研究場内の排水管
(第三系中礫層)を切る断面(N45°N75°E)の
延長地点



凡 例	
	独標104m面
	ヤチナイ面
	山麓緩斜面、崖錐・小扇状地面
	谷底平野

図一8 地形面分布図